● プラキットを組み立てよう ～素組み編～ ●

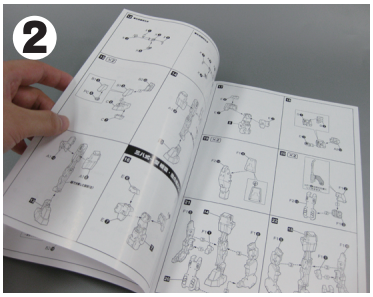
TEXT：柚木聡平（壽屋）

コトブキヤのプラキットは細かいパーツやクセのある分割、パーツ数の多さなど、一般のキャラクターモデルと比べ敷居の高い印象があるかもしれません。が、基本を守って作業していけば、決して難しいものではありません。ここでは実際にキットを組み立てていく流れを紹介しつつ、組み立てのポイントについて解説していきたいと思います。今回は特に、「パーツの切り取り方」に重点を置いて解説しております。キット製作の参考になれば幸いです。

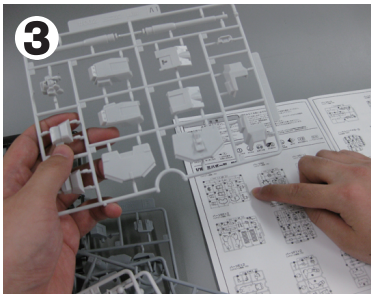
今回使用するアイテム

今回使用するキットは「フレームアームズ #005　榴雷（りゅうらい）・改」。
パッケージのボリュームはすごいですが、素体となるフレームが組み立て済みとなっており、組み立て難度はそれほど高くありません。今回はこれを題材に解説していきます。

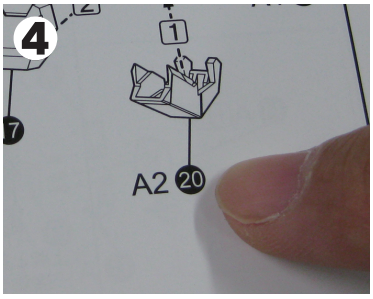
使用する道具。組み立てる前にそろえておきましょう。まずニッパー（プラモデル用）とデザインナイフ。この 2 点は必須です。さらにピンセット、プラモデル用接着剤、爪楊枝があるとベター。



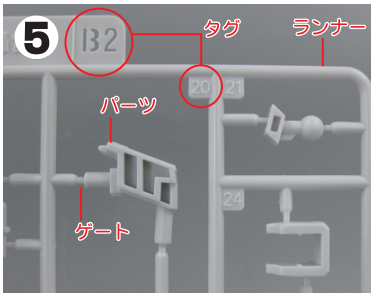
キットの箱を開けたら、まずインスト（組立説明書）を取り出して読んでおきましょう。インストを読まずにぶっつけ本番で組み立て始めると、パーツの付け忘れや組み間違えを起こす原因になります。ここで一度組み立ての流れや注意事項について予習しておくことが重要です。



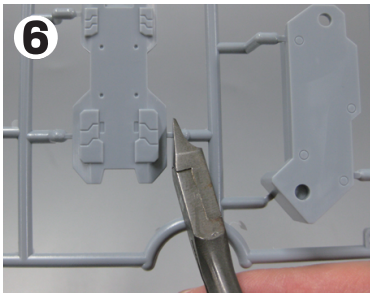
次に、内容物のチェックを行います。インストにあるパーツリストを見ながら、キットのパーツが全てそろっているかをここで確認しておきましょう。



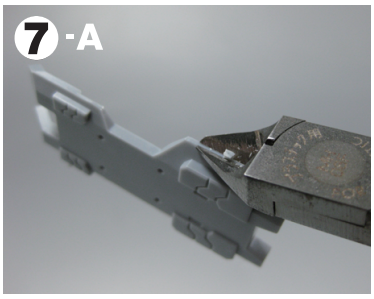
組み立て開始です。インストで指定されているパーツを切り離し、組み付けていきます。番号の読み方ですが、例えば図では「『A2』タグのついた枠にある、20 番のパーツ」を示しています。



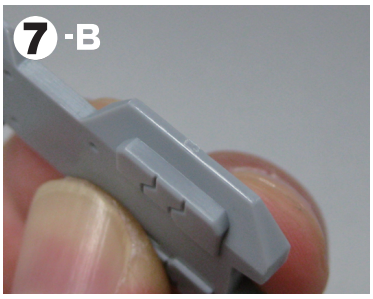
パーツを切り取る説明の前に、各部の名称について説明しておきます。パーツ全体を囲んでいる太い枠を「ランナー」、パーツとランナーをつないでいる細い軸を「ゲート」と呼んでいます。ランナーやパーツの近くについている、記号の入った板は「タグ」と呼びます。



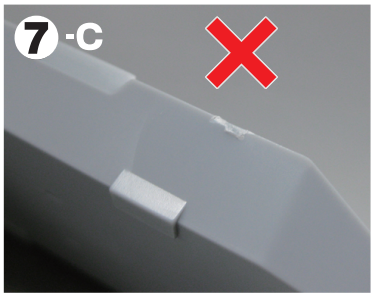
それではパーツを切り取っていきましょう。まず、ニッパーを使って、ゲート部分を切り取ります。この時、パーツからなるべく遠いところで切るようにしてください。



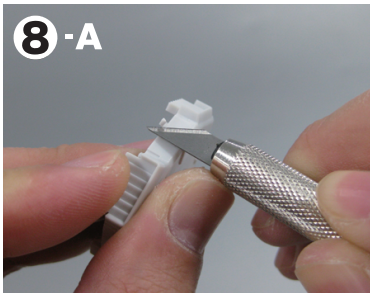
パーツをランナーから切り離したら、パーツ表面にニッパーの底面を密着させて、パーツに残ったゲートを切り取ります。ゲートの肉厚が薄い方へ刃を水平に当てて切るのがポイント。切り取ったゲートのかすが出てしまうので、空き箱を下に置いて作業すると周りが汚れずに済みます。



ニッパーで仕上げた図。ニッパーをパーツへ丁寧に密着させて切り取ると、このようにきれいに切り取ることができます。ただ、ゲートが極端に太い場合、この方法を行うと中心がねじ切れたようにえぐれてしまいますので、その時は⑧の方法で仕上げることをお勧めします。



こちらは失敗例。本来まっすぐなパーツのラインがえぐれてしまっています。ランナーからパーツを切り離すとき乱暴に作業すると、このようにパーツ自体を傷つけてしまい、組み立てや完成後の見栄えに悪い影響を与えてしまいます。切り離し→仕上げと工程を分け、丁寧に切り取ってあげましょう。



デザインナイフを使った仕上げ。ナイフを手前から奥へ動かし、ゲートの上から少しずつ削いでいくようにして切っていきます。いきなり根元から切ろうとすると、パーツをえぐったり余分な傷をつける原因になるので NG。またケガに十分注意して作業してください。